

**NONNATIVE CREATIVE INTERVIEW**  
**JAN VRANOVSKÝ**  
**(video transcript)**

ヤン

「都市」ということは大事です。多くの場合、目に見える公共空間で、社会が判断される。外国の都市に行ったら、国民と話すなんてをできず、あの都市をよく見て、その国の在り方を判断する。

私は建築家、グラフィックデザイナー、そして写真家です、最近。僕のバックグラウンドはグラフィックデザインです、実は。そこから始まった。子供の頃からグラフィックデザインが頭から離れない。6、7歳からかな。

12歳ぐらいからグラフィックデザインしてお金をもらって、18歳で学校の隣でフリーランスを始めた。しかし、大学、専攻を選ばないといけない時に考えてたのは、数年間でグラフィックデザインをしていたから、グラフィックデザインを勉強するのはつまらないんじゃないかな、と正直思いました。

そして、ある意味で限りもありました。一般的にデザインに興味ありました、もちろん。

都市にも興味ありました。正直、あの時には建築に対してはあんまり興味なかった。

建物自体をどう考えればいいのかは分からなかった。だけど、仕事として「建築」をするなら、デザインの分野でなんでもできるようになると思いました。

基本的に、建築家として、グラフィックデザイナーの仕事もできる。ゴロのデザインができるし、当たり前と思われる。しかし、グラフィックデザイナーとして、クライアントに言いにくいのは「家もデザインできます」。僕ができることを制限しない仕事を選んだ。

だけど、入学不合格してしまった。断られた。だから最初の1年間は別のコースを選ばないといけないということになった。日本学を選んだ。

アリーシャ

そのきっかけは？他に色々専攻あったのに、なぜ日本学？

ヤン

あの、、、いい質問だ。既に日本に興味を持っていた。18歳、18歳の誕生日の2日あと、一人で日本に行って、人生を変えるような経験でした。

そのまえ、文化について少しだけ分かったけれど、日本に凄くなじむ。他の国に行ったことがあります。2, 3年間アメリカに住んでいた。初めての海外旅行なわけじゃなかった。デザインとグラフィックデザインを別として、日本はある意味で趣味でした。すぐ選べました。

少し日本語をして、やめて、建築に行った。チェコで大学を卒業してからチェコ以外の数大学院に入学申請をしました。その中からの一つは日本の東京大学でした。合格できて、全額支給諸学金をもらいまして、ラッキーでした。断るのは無理だった。それは4年前。

結局日本にきて、勉強を終了しました。勉強終わってからまだ日本の滞在する予定はなかったけれど、色々あって建築家として日本で仕事を始めた。

アリーシャ

その経験は日本の建築事務所で働くことの準備をさせたか。または一

ヤン

いや。

アリーシャ

分かった。

ヤン

いや、準備できなかつた。だけど、どこでもよく知られていると思います。学校は実際の建築の仕事の準備をさせない。

一般的に、日本の学校はテクニカル系と感ずますね。デザインはあんまり注目されていない。生徒のプレゼンで少し見える。見た目はあんまりよくないんだけど、研究をして結果を出すのは上手です。

回答といえば、いや、学校は全く準備をさせられなかつた。しかしながら、準備をさせるべきと思わない。させるべきことは基本の方法というか、考え方を教えてくれると思います。問題解決の考え方です。より一般のことです。というか、作ることによって自分を造る。

アリーシャ

日本人じゃない人として、日本の建築事務所で働くのはどんな感じでしたか？

ヤン

日本の事務所で働くのはショックだった。なぜかという、一部分は必ず言語の壁だった。基本的に、僕はまだ英語で話したから、すごく、、、距離というか孤立を感じた。

日本の労働文化は凄く特殊ですね。受け入れるのは難しいと思います。コミュニケーションは足りなかつた。いつもそう感じた。それは日本語と関係ない。会話術というか会話をツールで問題解決して、一人で考えない解決を思いつくこと、完全に新しいことを思いつくためのツールとして使うことはなかつた。

同僚にこういうような会話をさせて、ディスカッションをさせて、問題なさそうできちんとびっくりしました、皆は。そして彼らの心配は時間の無駄だった。直接言われました。「時間を無駄すぎたかもしれない。」けれど面白かつた。

## アリーシャ

日本の建物を撮影する興味はその葛藤から出てきたと思いますか。もしかして元々写真を撮るのは好きだった？

## ヤン

葛藤からきたと言わないと思う。実は大学の時から写真の興味が始まった。だけど、その時にも葛藤が結構ありましたので、もしかして葛藤関係かな。

ある程度、逃れる方法だった。時間の過ごし方。少しの間別のことをやる。それは大事だと思う。基本的に、趣味ですね。前はあんまり写真に興味はなかった。チェコでは写真を撮らなかつた。

全く分からない都市、または国に来たら、凄く面白くて、圧倒的な気持ちを感じますね。着いて、その翌日学校が始まる。僕は家と学校の間のだっかにいた時ですが、、、知らない都市にいるのは変な感じになるでしょう？道が分からないし、場所も分からない。

僕の場合、最初にどこにいるのかを知るのは大事だった。そんなにシンプルだった。写真を撮るのは大事じゃなかった。普通に歩いたら、どこにいるのかを見ようとしただけだった。けどもちろん、一人だったから家族、友達をシェアしたかった。だから写真を撮って、Tumblr またはインスタまでアップした。シェアをするためだけ。シリーズを作るとか写真家になる予定はなかつた。全くその予定はなかつた。大学、建築で忙しかつたから。

けど、不思議ですが、数か月以後、雑誌、インタビュー関係の連絡がきた。ショックだった。その期待はなかつた。けど、少しずつ続けいていて、自分のトピックを決めた。

面白かつたのは、ある時に、そのトピックは大学での研究トピックと一体となった。修士論文は僕の写真と写真家として発見したものから結構影響されました。

実は建築撮影の仕事ができるようになってきた。実際、仕事として写真を撮っています。いいカメラを買った。なので、三つ目の仕事というか、三つ目のトピックになった。

アリーシャ

そうだね。面白いのは、それぞれの関係ある、あるいは繋がっている分野はお互いにフィードバックしているんですね。

ヤン

たしかに。

アリーシャ

仕事の結果にも見える。

ヤン

そう。全くその通りです。色んなことをやるの一番大きなメリットです。その2, 3のデザイン分野のなかでフィードバックループを作るんだから。僕にとって、写真を撮るのは探査です。実は、建築デザインとグラフィックデザインにもものすごく大きなインスピレーションになった。

正確さは、ある意味で、大事です。だからある時に、自分をトレーニングしないといけない。正確、明確になるように。けれども、その正確さはクリエイティビティを潰すよ。クリエイティビティを要るよね。なければ、違うことができない。違うことをやりたいよね。だから、源を見つからないといけない。それを使って、皆と違うことをする。

結局、自分の国以外に行くだけ、クリエイティブとして仕事をするのも同じような理由とルーツですね。新しいインスピレーションの源を見つかりたいからね。そんなにシンプル。

最近の話ですが、1カ月前から、新しい会社で勤め始めた。新会社です。建築デザインだけではなく、ブランディング、デザイン事務所です。私たちは0から作っているとは言えます。僕にとって面白いです。なぜかというと、色んなデザイン関係のものを組み合わせ

る機会です。建築、グラフィックデザイン、ブランディングを繋がること。写真もかもしれない。そして企業のモデルを作る。

最終的にすべてが一体となった。予定なかったけど。日本にいる建築家です。

アリーシャ

ヤンさん、今回のノンネイティブ・クリエイティブに参加いただき、ありがとうございました！もし、彼の仕事に興味ある、写真を見てみたい、他の面白いことをチェックしたいなら、彼の Tumblr、インスタ、Behance 等を是非チェックしてみてください。

ヤン

あ、そうだ。

アリーシャ

色んな面白いことがありますよ。なので、是非かれの作品をチェックして、今回の動画をご覧いただきありがとうございました！

ヤン

望むか望まないか、人生に色んな方向に自分を引きずる。自分の母国にいるなら、自分でその国に生まれることに決めなかった。その言語を話すことに決めなかった。なにも決めなかった。住みたいところを決めなかった。定められた。

だけど、それを壊して、海外に行って、、、別のことになる。自分で決めることになる。自分で全てを再考する機会になる。それは凄く楽しいと思います。